

座長：中尾 哲之
空田 安博

非協力児への対応について



コメンテーター

九州歯科大学附属病院小児歯科 歯科衛生士

酒井 美 幸

■ 略歴

1974年3月 九州歯科大学附属歯科衛生学院卒業
4月 ムクノ歯科医院勤務
1976年7月 九州歯科大学附属病院小児歯科勤務
現在に至る

小児歯科において苦慮する課題の一つに、非協力児の治療が挙げられる。

もし、この歯科治療における非協力児を協力児に変える画期的な方法があればどんなに助かることかと、いつも思う。

しかし、このような患者もこちらの接し方次第では、この変化を見せてくれることがある。私たち歯科衛生士は、日頃から、その時、その患児に適した接し方を見つけるために、子供が診療室で見せるわずかなサインを逃さずキャッチするように、心がけておく必要がある。そして、そこから子供の心理状態を察し、対応策を判断する。この作業の積み重ねが、次第に子供の理解を深めていくのではないかと思う。

今回のシンポジストの発表には、日常の診療の中で具体例を示しながら、このエッセンスとも言うべきものを示唆してくれる内容がふんだんに盛り込まれている。また、非協力児の対応で、問題とされる強制的な治療に対する考え方とその取り組みについても、それぞれの医院で特徴がある。この点も興味深いものがある。

今日の医療においては、インフォームドコンセントが基本となっている。非協力児の対応についても強制治療、母子分離、鎮静法などにおいて、こちらの方法を強要するのではなく複数の選択肢を提供し、保護者とともにその患児にとって最良の方法を見つけだしていく。この過程で、保護者との信頼関係が構築される。このことは子供にアプローチする上でもかなり効果的で、子供の心を開く“鍵”になると考えている。

このシンポジウムで、様々な対応を知ることにより、私たちが各々の職場で模索しながら自分にあった新しい対応策が発見できることを願っている。